

省力・低コスト稲作を目指して【続】

～鉄コーティング直播で変える米作り

前号に引き続き、鉄コーティング種子による湛水直播（鉄コーティング直播）の先進的な取り組みを進める株クボタのアグリソリューション推進部 廣兼 以斉グループ長のインタビューを紹介する。コスト面での比較や収量、施肥上の留意点についてお話を伺っていく。

株クボタ アグリソリューション推進部 廣兼グループ長に聞く（続編）

【マックジャーナル：以下MJ】鉄コーティング直播は現在どれくらいの広がりを見せているのでしょうか。

【廣兼グループ長】当社の把握している範囲では、平成24年産では全国で約5,500haで取り組まれているようです。しかし、調査の及ばない地域でも取り組みをしていると考えられますので、実際には更に多くの面積で取り組まれているものと考えております。

【MJ】鉄コーティング直播のメリットの一つに、省力化や生産コストの低減があげられます。ただ、定量的な効果が気になるところです。貴社が把握されている具体的な事例をご紹介願えますか。

【廣兼グループ長】まず、鉄コーティング直播の導入による省力化の効果として、新潟県下の生産法人での事例を挙げます。塩水選から移植まで要する10a当たりの労働時間は、移植した対照区が4.17時間を要したのに対し、直播した実証区では2.46時間と41%の低減ができております（右表）。また、10a当たりの生産費は対照区の18,316円に対し、実証区は13,733円と25%低減出来ました。両者の違いは、育苗資材費と育苗や田植に要する人件費に大きく表れております。

【MJ】直播のデメリットとして収量が減少するという話がありますが、鉄コーティング直播では移植と比べて収量の変化はありますか。また、栽培されたコメの食味については如何でしょうか。

【廣兼グループ長】当社で調査したデータによると、移植と比べて遜色ない成績になっています。産地によっては移植より収量が高いケースもありました。24年産も高温や集中豪雨のなか、概ね移植栽培並みの収量や品質は確保できています。食味については、登熟期の高温を回避できることで登熟日数が長くなり、粒が充実し、玄米窒素濃度が低下することが、好影響を与えているのではないかと考えています。

直播栽培の普及に向けて

直播栽培の取り組みが難しい地域もあるようだ。九州の肥料商の方から直播栽培のネックとして、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の食害を挙げられた。また新潟の生産者の方からは、雪消えが遅いため、地温が低く苗立ちが不安定になり易い状況があり、直播導入をためらわせているという声を頂いた。

（次ページへ続く）

10a当たり労働時間[移植作業(直播:播種作業)まで]

作業項目	対照区(移植)	実証区(直播)
塩水選	0.11	0.08
種子粉消毒	0.05	0.04
コーティング	-	0.41
育苗ハウス準備	0.82	-
育苗箱消毒	0.06	-
耕うん	0.17	0.17
整地	-	0.48
代かき	0.44	0.63
肥料散布	0.27	0.26
播種	0.38	0.39
田植	1.87	-
合計	4.17(時間)	2.46(時間)

10a当たり生産費[*差のある費用のみ計上]

作業項目	対照区(移植)	実証区(直播)
育苗資材費	4,241	1,021
減価償却費	7,845	9,268
労働費	6,230	3,444
合計	18,316	13,733



(前ページより続く)

このような地域への導入には、苗立ち率の向上や安価で効果のある除草剤等、技術や資材の更なる開発が望まれる。

直播適性のある品種開発も期待が寄せられる分野だ。2002年に北海道立上川試験場で開発命名された「ほしまる」。良食味であり、耐冷性にも富む。現在は北海道により水稻優良品種に指定、直播栽培等で作付拡大が図られている。従来北海道では、道南以外で直播に向く良食味品種が無かった。現在「大地の星」とならぶ直播栽培に適する品種として、作付拡大が図られている。今後の動向を注視したい。

加工・業務用野菜産地と実需者の交流会開催される

2月19日、独立行政法人農畜産業振興機構(農畜産機構)と野菜ビジネス協議会の共催により、東京国際フォーラムにおいて『国産野菜の契約取引マッチング・フェア』が開催された。農畜産機構の担当者はフェア開催の狙いを次のように語る。「今回の開催目的は、産地と実需者および中間流通業者を結び付け、野菜の契約取引を推進すること。あわせて契約取引をバックアップする国の補助制度を紹介し、野菜の安定供給を支援して行きたい」

当日の出展数は、生産者・種苗会社・流通業者等で111社。大型の農業法人から小口でこだわり品を出荷する生産法人まで様々な生産者の出展が見られた。開催日は雪交じりの雨模様であったにもかかわらず、広いスペースの商談ブースが概ね埋まっており、来場者の多さと関心の高さを伺わせた。来場したある食品商社の担当者は「会場がコンパクトだが、それゆえに目的の法人を探すのが容易で商談も多くこなせた」と話した。

農畜産機構によれば、まだ出展ブースの余裕があるので、今後も契約取引に意欲ある生産者は是非参加してほしいとのこと。次回は今年10月31日に福岡国際会議場(福岡市)で開催予定。4月より出展者の募集を開始する予定だ。生産者の方は需要者の意見を聞くチャンスであり、参加を検討してみたいだろうか。

【問合せ先】(独)農畜産業振興機構 野菜業務部 直接契約課 TEL:03-3583-9817 FAX:03-3583-9484
E-mail:keiyaku831@alic.go.jp



コンパニオンプランツ～ガーデニングの豆知識

3月に入り、園芸店やホームセンターの植物売り場も活気が出始めた。中でも近年家庭菜園に注目が集まっており、都市部でも自ら栽培に取り組む方が増えてきた為、苗の販売は伸びているようだ。今回は野菜と花苗と一緒に育てる「コンパニオンプランツ」のご紹介をしたい。

これは植物が、お互いに影響しあって病虫害や雑草の被害を減らしたり、成長を促進したりする植物の組み合わせのこと。例えば、トマトとバジルを一緒に植えたり、イチゴをポリジヤカモミールと一緒に植えることによって、トマトやイチゴを美味しくすることが出来る。

ただ相性が悪い組み合わせもあるので要注意だ。ポリジとキャベツ、ローズマリーとジャガイモなどの組み合わせは作物の成長を遅らせてしまうようだ。ガーデニングの季節を迎えるにあたり、「コンパニオンプランツ」をうまく活用して、ガーデニングを楽しんでみてはいかが。

寒い日が続いておりましたが、日によって冬や春、初夏の陽気になり、体調管理が難しいですね。風邪をひいたかな?と置いていたら、実は花粉症だったという方もいると思います。肥料業界も当用期を迎え、体調は万全で望みたいですね。

編集事務局：小田、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp